



# わかみどり

URL <http://minami.city.kitamoto.lg.jp>

北本市立南小学校

みんな なかよく みどりの学校  
かしこく 元気な 南っ子

Tel 048-591-4709

Fax 048-591-5802



## 地域にゆかりのある偉人を誇りとして

校長 安田 一也

朝晩の冷え込みが厳しくなり、日が沈むと色とりどりのクリスマスイルミネーションが街を彩り始めます。早いもので令和5年も残り、ひと月になりました。例年この時期から、インフルエンザ・感染性胃腸炎などが本格的に、流行しはじめますので、健康には十分留意したいものです。

さて、インフルエンザと言えば、新型コロナウイルス感染症同様、ウイルスがもたらす感染症ですが、感染症の治療に関し、本市にゆかりのある世界的に有名な医学博士がいます。

2015年12月10日、スウェーデンの首都ストックホルムでノーベル生理学・医学賞を受賞された大村 智（おおむらさとし）博士（北里大学特別栄誉教授）です。市内北里大学メディカルセンターの建設に尽力され、その功績をたたえ、北本市文化センターの南側に顕彰碑（2017.8.5 顕彰）が建てられているのでご存知の方も多と思います。そこで、今月は大村博士を話題にします。

大村博士は、1935年（昭和10年）山梨県韮崎市で養蚕を営む農家の長男として生まれました。少年時代は、甲府盆地の野山を駆けめぐり、川で釣りをしたり、森で動物を追いかけたりして、自然豊かな環境の中で育ちました。小学生になると、家業である農作業を手伝い、わらや草や落ち葉をもとに堆肥づくりを学びます。このことは、後の微生物の研究に役立ちます。

地元の大学を卒業後、上京し、都立夜間高校の理科教員として、指導にあたります。ある日、昼間は働き、夜、勉強するために登校してくる生徒の鉛筆を持つ指に油がこびりついているのに気付きます。洋服のところどころが油まみれになり、作業着のまま急いで登校してきたと思われる生徒もいます。その光景を目の当たりにして、「この生徒たちに恥じぬよう自分ももっと勉強しなければ」と胸の奥から湧き上がる研究へのエネルギーを感じます。

博士は考えた末、理科教員を辞め、研究者としての一步を踏み出します。やがて、様々な功績の中で、世界で年間2億人以上の人々を失明させてしまうと言われる寄生虫による病気を治す特效薬「イベルメクチン」を発明します。この「イベルメクチン」は、寄生虫だけでなく、人間の線虫、ダニやブヨ等を原因とする糞線虫症・疥癬・河川盲目症などにも効き、多数の感染症がある中で年1回の投与だけで効果があることが検証されています。

博士の研究の原点は、自然の大切さと自然現象の仕組みを知った少年時代の農作業にヒントを得ています。それが、生涯にわたって微生物が作る「人に役立つ」化学物質の追求に全力を尽くすことにつながるのです。

（出典：大村 智ものがたり 毎日新聞出版）

大村博士の偉業の背景には、自然に恵まれたふるさと「韮崎」での農作業が密接に関係しています。韮崎と同じ緑豊かな北本市とゆかりのある大村博士を誇りとし、感性を豊かに働かせながら、自ら考え、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるよう、学校の使命を果たすことを肝に銘じ、一年を締めくくります。保護者や地域の皆様、この一年もたいへんお世話になりました。

～来たる年が 皆様にとって 輝かしい年になりますように～